

修士論文 (要旨)

2011年1月

トリニダード・トバゴにおける日本の大衆文化  
—日本語学習者へのインタビューにみる理想化された日本—

指導 齋藤伸子 先生

言語教育研究科

日本語教育専攻

209J3002

川崎タルつぶら

## 目次

はじめに	1
第 1 章 研究の背景および目的	2
1.1 研究の背景	2
1.2 研究の目的	3
第 2 章 先行研究	4
2.1 海外の日本語学習者と日本の大衆文化視聴の現状	4
2.2 ライフストーリー研究	5
第 3 章 トリニダード・トバゴの背景および日本語教育事情	7
3.1 トリニダード・トバゴの歴史と民族・言語的背景	7
3.2 トリニダード・トバゴの日本語教育事情	9
第 4 章 第 1 回目 アンケート調査	13
4.1 調査概要	13
4.2 調査結果と分析	14
4.3 考察	20
第 5 章 第 2 回目 アンケート調査	21
5.1 調査概要	21
5.2 調査結果と分析	21
5.3 考察	27
第 6 章 インタビュー調査	32
6.1 調査概要	32
6.2 L1 のストーリー	33
6.3 L2 のストーリー	46
6.4 L3 のストーリー	58
6.5 考察	66
第 7 章 総合考察	76
7.1 インターネットの普及と日本語学習者数の増加	76
7.2 孤立環境における人的リソース	76
7.3 遠い国日本に向かって	77
7.4 メディア環境の変化によって広がった日本の大衆文化接触	78
7.5 理想化した日本と現実とのギャップを埋めるために	79
おわりに	80

謝辞

参考文献

資料

キーワード：

トリニダード・トバゴ、日本の大衆文化、日本語学習者、理想化、日本への想い

## 要旨

近年、日本語学習者の多くは、日本のサブカルチャー(アニメ・マンガなどの大衆文化)が動機づけとなり、日本語学習を始めていると言われる。しかし、実際に現場で教える日本語教師は、学習者がどのように大衆文化に接しているかなどの実態を十分把握しているとはいえない。また、日本語学習者と大衆文化との関わりに関する研究はまだ十分ではないのが現状である。日本からはるか遠い西インド諸島の最南端に位置するトリニダード・トバゴにおいても、日本語や日本文化に興味を持ち、日本語学習を行っている学習者が存在する。稿者は、当地の西インド諸島大学の語学センターで、2004 年秋学期から2009 年春学期まで日本語のクラスを担当していたが、この体験を通して、トリニダード・トバゴにおける学習者もアニメ、マンガ、ドラマなどの日本の大衆文化の影響を大きく受けていることを実感した。人口約130万人に対し、在留邦人の数が40人ほどの(2010年度)、人的／社会的リソース(田中・斉藤 1993、トムソン1997)が極めて少ない環境の中、なぜ彼らは日本語学習を行っているのだろうか。

本研究は、トリニダード・トバゴの日本語学習者を通して、トリニダード・トバゴにおける日本の大衆文化に関する実態の一端を明らかにし、今後トリニダード・トバゴの日本語学習者のために、効果的な日本語教育の現場を提供するための突破口を模索するものである。

本稿では、まず第1回目にパイロットスタディとして、トリニダード・トバゴにおける日本語学習者のアニメ・ドラマの視聴実態の概要を把握するため、アンケート調査の結果の分析と考察を行った。調査対象者は2009年5月、語学センター日本語コース、初級レベルを終了した日本語クラス受講者で、23人中16人から回答を得た。協力者は大学生・社会人を含め20代の若者が中心であった。日本のアニメ・ドラマに関しての視聴経験は、回答した16人全員があると答えた。視聴動機としては、ストーリーラインといった内容に関して、また面白い、俳優が好きだからなどの情意面、新しい単語を学ぶなどの日本語学習につながる行動、日本の文化や習慣をみているといった広範囲に亘る回答を得た。視聴物に関する問いには、アニメ、ドラマを合わせて、117作品の名前が挙がった。そして学習者は、これらの作品をインターネットまたはDVDを介して視聴していることがわかった。

次に、2010年2月、第2回目アンケート調査を実施した。調査対象者は、同語学センターにおいて2010年2月時点で日本語クラスを受講する(初級レベル受講修了者を含む)日本語学習者合計34名である。パイロットスタディの結果をもとに、学習者のインターネット利用の実態および大衆文化の視聴の実態を把握する目的で、パート1とパート2の2部に分けた。パート1では、学習者のインターネット利用に関する質問を行った。また、パート2では、学習者のアニメ・ドラマの視聴に関する質問を行った。学習者は学習サイトを日本語学習のために利用していることがわかった。その結果、ドラマ・アニメに関しては、ほとんどの学習者が趣味として視聴しており、多くの学習者がドラマ・アニメ以外に学習サイトも学習目的で視聴しているという傾向が窺えたが、学習サイトだけではイン

タラクションに欠けるという意見もみられた。

また、2010年2月には同語学センターにおいてインタビュー調査を行った。日本のアニメやドラマの好きな日本語学習者を対象に、個別に日本文化へ興味をもったきっかけ、日本語学習の動機や目的を明らかにするため、1対1の対面式で19名に半構造化インタビューを行った。質問事項は、アニメやドラマの視聴のきっかけからはじまり日本語学習動機、日本語学習の目的を中心とした。その結果、協力者の語りからそれぞれのライフストーリー（人生の物語）（やまだ2000）がみえてきた。協力者から大学入学前、現役大学生、大学卒業生を各1人、計3人を選んでストーリーを分析し、「日本との出会い」、「（協力者にとっての）日本の大衆文化」、「日本語と日本語学習」、「将来の夢」、「日本への想い」に分類してまとめた。その結果、インタビュー協力者は、インターネットが普及する以前の子どものころからアニメなどをローカルテレビやビデオで視聴しており、視聴媒体としてのメディアの変化に伴って視聴物、行動、興味の対象に至るまで変化が見られた。また、今回取り上げた3人の協力者全員が子どものころアニメを視聴しながら成長し、日本との直接接触のないまま、アニメをはじめとする日本の大衆文化を介して理想化した日本を描いていた。さらに、彼らは全員、JETプログラムを介して日本に行くことを計画していることが明らかとなった。彼らがこれから未来に向かって社会の一員として有意義な人生を歩むためにも、理想化した日本と現実との間のみぞを少しでもうめていくことが日本語教師の新たな役割であるといえるのではないだろうか。今後も、学習者の声に耳を傾け、学習者に反映していけるよう研究を深めていきたい。

## 参考文献

- アルク (2008) 「日本語学習者の好きなマンガランキング」、『月刊日本語 2008 年 5 月号』20-21.
- 神尾達之 (2008) 「ソフトパワーMANGA が日本社会にもたらしたマンガ観の変容」『月刊日本語』2008 年 5 月号、16-19.アルク
- 熊野七絵・廣利正代 (2008) 『『アニメ・マンガ』調査研究—地域事情と日本語教材—』、『国際交流基金日本語教育紀要』4、2008-03-17、55-69.国際交流基金
- 熊野七絵 (2010) 「日本語学習とアニメ・マンガ～聞き取り調査結果から見える現状とニーズ～」『広島大学留学生センター紀要』(20)、2010-03-31、89-103.広島大学
- 浅井亜紀子 (2006) 『異文化接触における文化的アイデンティティのゆらぎ』ミネルヴァ書房
- 桜井厚・小林多寿子 (2005) 『ライフストーリー・インタビュー 質的研究入門』38-39.せりか書房
- 近藤裕美子・村中雅子 (2010) 「日本のポップカルチャー・ファンは潜在的日本語学習者といえるか」『国際交流基金日本語教育紀要』6、1-7.2010-3、7-21. 国際交流基金
- 櫻井孝昌 (2010) 「COOL JAPAN 世界が好きな日本文化」『月刊日本語』2010 年 5 月号、12-15.アルク
- 澤崎宏一 (2005) 「学習者層の変遷から見る米国の大学の日本語教育 Japanese Education at American Universities: Change in Learner Motivation over the Last Five Decades」『国際関係・比較文化研究』第 3 巻第 2 号 (2005 年 3 月)、183-202. 静岡県立大学
- 田中望・斉藤里美(1993) 『日本語教育の理論と実際』、44-49. 大修館書店
- トムソン木下千尋(1997)「海外の日本語教育におけるリソースの活用」『世界の日本語教育』7、1997 年 6 月 17-29. 国際交流基金
- 広瀬和佳子・尾関史・鄭京姫・市嶋典子(2010)「実践研究をどう記述するか：私たちの見たいものと方法の関係」早稲田日本語教育学、第 7 号 43-68. 早稲田大学
- 福島青史・イヴァノヴァマリーナ (2006) 「孤立環境における日本語教育の社会文脈化の試み—ウズベキスタン・日本人材開発センターを例として—」日本語教育紀要第 2 号 49-64. 国際交流基金
- 三代純平(2010)「韓国人専門学校生の日本語学習と日本留学の動機に関する ライフストーリー調査」 2010 年度日本語教育学会秋季大会予稿集、183-188.
- やまだようこ(2000)『人生を物語る ライフストーリーの生成』ミネルヴァ書房
- 劉玲 (2007) 「教室の外の日本語学習に関する調査研究 (一) —アンケート調査を通してみるドラマ視聴の場合—」『金沢大学学術リポジトリ/応用言語学研究論集』1: 29-41. 金沢大学
- Winer, Lise.(2007). “Badjohns, Bhaaji Banknote Blue, Essay on the Social History of Language in Trinidad and Tobago”. School of Continuing Studies, The University of the West Indies.
- Winer, Lise.(2009). “Dictionary of the English/Creole of Trinidad and Tobago”, McGill-Queen's University Press McGill-Queen's University Press.